

東風平町立白川小学校教諭 真玉橋 初子

要約内容

本学級に在籍する児童は、集団の中での行動が不得意であり、話したり自分の意思を伝えることが苦手である。集団参加や意思交換を育む必要がある。そこで、大好きな絵本を教材化し多様な活動の場を準備し「聞く、話す、読む、表現する」活動を試み課題解決を図った。

児童の実態に応じ読書活動における個別指導計画を作成し、活動を展開した結果、楽しく学習に参加し、児童の変容を見ることができた。

【キーワード】 生活単元学習 絵本の読み聞かせ 個別指導計画 読む・話す・表現活動

目 次

I テーマ設定の理由.....	31
II 研究仮説.....	31
III 研究内容.....	32
1 よりよく生きるために.....	32
2 特殊教育の教育課程.....	32
3 指導の形態及び内容.....	33
4 絵本を使った読書指導の意義と役割.....	33
5 個別指導計画の意義.....	33
6 児童の実態と考察.....	33
7 島尻管内の小学校における特殊学級の絵本の読み聞かせ状況.....	34
8 読書活動における個別指導計画.....	34
IV 授業実践.....	34
1 単元名.....	35
2 単元設定の理由.....	36
3 単元の目標.....	36
4 単元の指導計画.....	38
5 本時の指導.....	38
V 研究全体の考察.....	39
1 教材について.....	39
2 児童の変容.....	40

よりよく生きるために生活単元学習の工夫

—読書活動における個別指導を通して—

東風平町立白川小学校教諭 真玉橋 初子

I テーマ設定の理由

新学習指導要領で、障害のある児童生徒が自己のもつ能力や可能性を伸ばし、自立し・社会参加するための基盤となる「生きる力」を培うことをねらいとして障害に基づく様々な困難を改善・克服する教育活動を一層重視することが示された。

また平成13年1月に「21世紀の特殊教育の在り方について」最終報告が出されたが、その基本的な考え方として「障害のある児童生徒の自立と社会参加にむけて生涯にわたって支援する」等が示され、一層きめ細かな支援が求められるようになった。

障害のある児童を指導するに当たっては、まず児童の障害の種類や程度を的確に把握する必要がある。個別の児童の実態に即した指導内容・指導方法を検討し、適切な指導を行うことが大切である。

特殊学級の児童は、心身の発達が未分化で一般化や抽象能力が弱いため心身の全体的な発達を促しながら実際の生活の中で幅広い豊かな経験をさせる必要がある。学習によって得た知識技能が断片的になりやすく実際の場で応用されにくいや、成功経験が少ないとにより主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていない。それゆえ児童の特性を考慮し生活に根ざし学習との一体化を図る必要がある。そのための学習形態として最適なのが生活単元学習である。

本学級は男子4人（5年3人、3年1人）、女子1人（3年）で構成された知的障害の特殊学級である。知的発達の程度は、軽度の児童が4人、中度で自閉的傾向の児童が1人在籍している。

児童一人一人は、絵本が大好きで毎日図書室へ行き本を借りてくる。発語や理解語が少ない子、絵だけを見ながらページをめくる子、拾い読みの子でも教師や友だちと一緒に絵本を見たり、読んでもらったりし楽しく過ごしている。

これまでに本学級では、子ども達を本に親しませるために、学校行事の読書時間、読書月間、朝の読書タイムを中心に取り組んできた。その結果、絵本や読み聞かせに興味も示さず、離席を繰り返し自由遊びをしていた子が聞くことが出来るようになり、セリフを覚えて遊びの中で使う光景もみられるようになった。

しかし課題として担任や友だちの話を最後まで聞けず正しく行動できない子、固執性が強く同じ系統の本を見る子、絵や本の字面だけを追うだけで内容にまで入っていない子、身近な人に内容を話したり感想を話すまでには至っていない等がある。また児童は、集団の中での活動が不得意で、話したり自分の意思を伝えるのが苦手である。そのような中で生き生きと生活させ満足感・成就感を味わわせるために読書活動を継続し取り組んでいる。

知的障害を持つ子の読書指導の難しさはあるが、知的障害をもつ児童は、絵本を通して様々な世界を広げ想像する。知識も増え思考することも多くなる。そこで、児童の実態にあった教材を作成して絵本を読む環境を整え、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに興味をもたせた幅広い経験をさせることにより個人の持つ課題を解決することができると考える。

読書活動を通して将来の社会参加の基礎を培うとともに豊かな心や自己表現力を養いよりよく生きる力をつけたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

知的障害を持つ児童への絵本の読み聞かせや読書活動を通して本に親しみ、多様な活動を経験させ、個別指導計画を取り入れた生活単元学習を工夫し豊かな表現力を養うことにより、一人一人の児童はよりよく生きる力が身につくであろう。

III 研究内容

1 よりよく生きるために

現代は、障害がある者にとって等しく教育の機会が与えられるだけでなく、進んで社会に参加し、自立を目指す時代である。この基本理念には、障害がある者も人間の本質において健常児と同じであるという人間観がある。

特殊学級における教育は、児童の社会参加と自立を図るため学校教育全体を通じて行うことが肝要であり、そこでは、児童一人一人の良さや可能性を發揮させ、自己実現のできる事が大切である。さらに多様な活動の場を準備したり、多様な人間関係作りをすることにより社会性を培わせる必要がある。また特殊学級においては、内面的には、児童の基本的欲求は満たしき生きとした生活ができ児童の成長・発達を促し将来のよりよく生きる力につながる教育を施すことが重要である。

また、よりよく生きるためにには、同じ年齢同士の集団経験の機会を積極的に設けるべきである。みんなと一緒に生活することにより同じように感じたり、同じ気持ちになったり、また関わる中で自己主張もしながら成長していく。それにより自己中心性や自己本能性を取り除き、望ましい性格が形成される。対人的、社会的関係の中で互いに関わることにより生きる力が培われる。

2 特殊学級の教育課程

特殊学級は、障害があるため、通常の学級における教育では十分な教育効果をあげることが困難な児童のために特別に編成された学級である。そのため学校教育法施行規則第73条の19によって、それぞれの学級が持っている役割や機能と、そこで学ぶ一人一人の児童生徒の実態に応じて、特別の教育課程を編成することが法律上認められている。

教育課程編成は、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間で編成する。指導の形態として各教科別の指導（国語、社会、算数、理科、音楽、図工、体育、生活等）、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間の指導、自立活動、児童生徒の特性から領域・教科をあわせた指導がある。

3 指導の形態及び内容

(1) 領域・教科を合わせた指導形態の概念

精神発達が未分化な児童に対しては、教科別、領域別に分けて指導するよりも、総合的な学習活動のほうが融合しやすいため、各教科、領域を合わせて指導することができる特例が設けられている。

学校教育法施行規則第73条の11には、特に必要がある場合、

- ① 各教科の全部又は一部について、あわせた授業を行うことができる。
- ② 各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができると規定されている。

知的障害を持つ教育においては、児童の発達段階や障害の状態によって、各教科を並列的に指導するより、各教科・領域に含まれる内容を一定の中心的な題材等に有機的に結合して、総合的な学習をする方がより効果的な学習と成りえることから、この特例が設けられている。

実際の指導に際して、児童に分かりやすく、全員が意欲的に学習に取り組めることが重要であり、学習した内容が学校生活や家庭生活に活用できるようになることである。

領域・教科を合わせた指導の主なものには、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習がある。なお、一つの学習活動の中に二つ以上の指導の形態を位置づけることはしないのが原則である。

(2) 生活単元学習の基本的な考え方

生活単元学習は、学習活動を教科別に分けないで統合化し、生活化して指導する領域・教科を合わせた指導の代表的な形態である。望ましい生活単元学習として備えるべき条件として次の事項を挙げてみた。

- ① 単元は、児童の心身の発達水準に合ったものであり、個人差の大きい児童の集団にも適合するものであること。本学級は、軽度の知的障害児が多いので、生活単元学習は6時間にした。
- ② 単元は、必要な知識・技能の獲得とともに生活上の望ましい習慣・態度の育成を図るものであること。
- ③ 単元は、児童が目標を持ち、見通しを持って単元活動に積極的に取り組むものであること。なお単元は、児童の目的意識や課題意識を育てる活動を含んだものであること。

④ 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、さらに児童がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるように計画されていること。

⑤ 単元は、単元の活動によって身に着けた関心・技能・習慣・態度が学校外の生活にも適用され、単元終了後の生活にも生かされるようなものであること。

以上のように、生活単元学習で押さえる目標や内容は、知的障害のある人たちが、社会の中で生活するために何が必要か、という観点から考えねばならない。

4 絵本を使った読書指導の意義と役割

絵本を使った読書活動は、話の内容が言葉だけでは分かりにくくても絵を見ることにより興味がわいてきて理解を助ける。さらに文章を読み、繰り返し読むことにより語彙数も増える。

障害を持つ児童は、人前で思うように話せなかつたり行動することが苦手で、引っ越し思案になりがちである。そこで大好きな絵本の読み聞かせをすることにより情緒の安定を図り情操を豊かにさせ、さらに実態に合った表現活動を取り入れることにより内にこもりがちな心を開き、自信をつけさせることができる。

読み聞かせのときは、一つの場面で多くの質問をしたり児童と会話するのを避け、個々の子どもが聞く力、頭の中で物語を考える力を育てたい。それが将来自分で本を読む力を育てることになる。

児童は読書活動を通して見て、演じて、楽しい経験をしながら、正しく美しい言葉や行動、表現力、創造性、思考力、行動力を養い、社会生活に適応する能力を養う。絵本の読み聞かせや表現活動は、知的障害を持つ児童に非常に適していて、総合的に学習でき、生活活動そのものである。

絵本は、能力に応じて与えることができ、総合的な言語能力を育て、楽しみながら協力的態度をも育て生活を豊かにするのである。

5 個別指導計画の意義

個別の指導計画は、知的障害の特性を踏まえ、一人一人の児童の障害の状態や発達段階等を的確に把握し、その中に内在している個々の指導事項の必要性を見極め、長期的な観点に基づいた具体的な指導目標を段階的に設定し、他領域・教科との関連性を考慮しながら計画する。指導の順序、指導方法、使用教材、指導上の留意事項等を定め、多様な学習活動が展開されることになる。個別評価は到達状況や今後の課題把握をし指導内容や方法の見直しにつなげることができる。

的確な個別の指導計画は、児童の課題や反応や変化に対応することができ、個が生きる日々の授業を展開することができる。

6 児童の実態と考察

一人一人の児童の実態を的確に把握するためにWISK-R知能検査(A,B,D,E児)田中・ビネー知能検査(C児)、S-M社会生活能力検査、読書力診断テスト、幼児・児童読書力テストを実施した。

生活年齢は、A(10-5)、B(10-11)、C(10-8)、D(8-8)、E(8-4)である。

知的発達の程度は、軽度精神遅滞が4人で中度精神発達遅滞・自閉的傾向の児童が1人である。

社会生活年齢は、A(6-1)、B(7-5)、C(4-10)、D(6-8)、E(8-4)である。学級全体として集団参加や意思交換に落ち込みが見られる。教師や友達と関わらせながら課題を解決したい。

読書年齢は、A(7-2)、B(6-11)、C(測定不能)、D(7-9)、E(6-10)である。語の理解と音節、文の理解に落ち込みがあり語彙も低調である。読みの学習の基礎となり、話す、聞く能力の面でも遅れていることを意味する。絵本を多く読ませ、その意味を挿絵からの的確に理解させる必要があり、普段の言葉のやり取りの経験を十分させたい。話す、聞く指導を通してよく身近な事物を観察し、言葉で認識を深めていく必要があることが分かる。そのためには、絵本の読み聞かせや読書が効果的である。

Bは、話す能力で期待できるので、いろいろな場面で話す機会を与え、持っている能力を發揮させたい。

7 島尻管内の小学校における特殊学級の絵本の読み聞かせ状況 (H・13・6)

項目	回答率
クラスの児童は絵本が好きですか	①好き100%
先生は読み聞かせをしていますか	①はい53% ②ときどき47% ③いいえ0%
どの程度の読み聞かせをしていますか	①週2,3回65% ②毎日12% ③週1回12% ④その他 11%
いつ読み聞かせをしていますか(重複回答)	①国語65% ②生活単元学習47% ③朝の会18% ④その他 6%

読み聞かせをした後、授業の中で取り入れた活動 (重複回答)	①読後感想文41% ②劇化29% ③紙芝居作り18% ④ペーパーサポート作り6%
----------------------------------	---

子どもたちは絵本が大好きでどの学校でも読み聞かせをしている。

8 読書活動における個別指導計画

名前	実 態	目 標	指導の手立て
A 男	大きな声で発表ができる 慣れるといろいろな話をする 同じ系統の本を読む傾向がある 拾い読みをする 絵を見て内容をつかんでいる 書くことは苦手で字は雑に書く	挿絵と文で読むことができる 絵本を読んで内容が分かる 本の内容を紹介することができる 読んだ本について簡単な文に書くことができる	自作の絵本を準備する 教師と一緒に台詞のやりとりをして内容理解を助ける いろいろな文章を作つて楽しませる
B 男	発表の声は小さい 毎日図書室へ行き本を借りてくる 絵本は、ゆっくり読んでだいたいの内容が分かる 人見知りをし話すことは苦手である 字はていねいに書くことができる	いろいろな本を読むことができる 読後の感想を言って書くことができる 身近な人に好きな絵本の紹介ができる	個人用の絵本を準備する 大きな声が出るように発声の練習をさせる 挿絵と文を基に思ったことを言わせる
C 男	話をほとんど聞かない いつも同じ系統の本を読んでいる パターン化された行動を繰り返す 発音が不明瞭である 紙芝居が大好きで毎日読んでいる 簡単な単語はいえる	教師と一緒に絵本を読む 座って話を聞くことができる 好きな言葉を覚え大好きな場面を楽しく表現する 学習の決まりを守り最後まで参加することができる	自作の紙芝居を読ませる 文字の読みを通して社会性を広げさせる 級友との関わりを持たせ授業に参加させる
D 男	本読みは得意。発表時の声が小さい いろいろな話をするがつじつまが合わないことが多い 書くことが大好きだが内容は似ている。字は雑になる 最後まで聞くことは苦手である	よく考えて相手に伝わるように話すことができる 声の大きさに気をつけて発表することができる 読後の感想をていねいに書くことができる	大きな声で感情を込めて読むようにさせる みんなに分かるように話させる 句読点で区切って読むようにさせる
E 女	絵本は拾い読みをしながら一生懸命に読んでいる 挿絵を読んで大体の内容が分かる 人見知りをし声も小さい 慣れるといろいろな話をしてくれる 丁寧に書くことや文作りは苦手である	好きな場面を見つけ、みんなに分かるように発表する 丁寧だが時間がかかるので少し速く仕上げるようにする 恥ずかしがらずに大きな声で発表することができる	自作の絵本を使って繰り返し学習させる 挿絵や文で話しあう 好きな場面を自分の言葉で分かりやすく発表させる

IV 授業実践

1 単元名 「楽しい読書」

2 単元設定の理由

(1) 教材観

知的障害を持つ児童への指導においては、指導内容は、障害の程度や学習上の特性から児童の実態に即し選択・組織すること。教材・教具は、児童が興味・関心を抱くものにする。指導方法は、目的が達成しやすいように段階的な指導を工夫し、学習活動への意欲が育つように指導する等の教育的配慮が必要といわれている。

知的障害を持つ児童が好きな絵本は、文字の多い本よりも、具体的に目に見える絵で物事が示された絵本の方がより理解を助けるので、教材化するのに適している。

本学級の児童は、教師が読み聞かせをした絵本の中で「三びきのがらがらどん」、「そらまめくんのベッド」が大好きである。二つの絵本は、絵と文が結びついて想像しやすくわかりやすい。

また言葉の繰り返しがあり、やり取りの楽しさを味わうことができ、動作化等によって表現しや

すい。

またそれらの絵本は、素朴さ、温かさ、明るさに勇気付けられ、主人公と一体になって冒険を楽しむことができる等、優れた内容を持ち広がりのある活動が期待できる教材である。

このような理由で二つの絵本から児童一人一人に、知恵、やさしさ、思いやりの心、感じる心等生きる力を育てたい。

(2) 児童観

これまで児童の心身の発達の把握は、自作のチェック・リストやS-M社会生活能力テスト、WISC-R知能検査等を行ってきたが、今回は、標準化された科学的な検査を実施し一層客観的に実態を把握し指導の手がかりにした。

本学級の児童は、社会生活年齢は四歳から七歳まで、知能指数は40から80までの間、読書年齢は六歳から七歳、測定不能(1人)、読書能力も個人差がある。障害も多様で発達年齢にも開きがあることがわかったので一人一人の実態に応じた目標を設定して学習を進めたい。

また読書に関する調査では読み聞かせは、やっている家庭もあるが今後連携をとりながらさらに絵本との出会いを作っていく。

(3) 指導観

児童は、絵本の読み聞かせにより耳から言葉を聞き、字の読めない子でも「絵」を見て絵を読むことができる。視覚と聴覚を通して「ことば」のイメージを「絵」の助けをかり、より豊かにし知識も広げさせたい。

本学級の児童は、自分の気持ちを伝えたり話し合ったりすることが苦手なので、読書活動を通して、友達との会話を増やし、そのときのことばの表現も豊かにさせたい。情緒の発達を促し豊かな感性を培いたい。さらに話し合ったり確かめたりする中で個々の自己表現力も育てていきたい。

3 単元の目標（行動目標）

- ・絵本や、やさしい読み物を読んで楽しむことができる。
- ・見たこと、考えたこと、感じたことを言葉、動作化、文章で表現することができる。
- ・仲良く活動することができる。

個人目標

名前	目標
A	みんなをリードし活動する。 読んだ本を身近な人に紹介すること。 簡単な読後感想をもつことができる。 簡単な文に書くことができる。
B	簡単な読後感想をもつことができる。 読んだ本を身近な人に紹介することができる。 読後の感想を簡単な文に書くことができる。
C	教師といっしょにいろいろな絵本を読むことができる。 大好きな場面を動作化することができる。 学習に最後まで参加することができる。
D	いろいろな本を読むことができる。 話をよく聞き学習に参加することができる 本を読んで考えたことを書いたり、身近な人に紹介することができる。
E	好きな絵本を最後まで読むことができる。 好きな方法で絵本の紹介ができる。 苦手なことでもわがままをいわず頑張ることができる。

4 単元の指導計画

小単元名	時	ねらい	活動内容	教材の工夫・留意点
本となかよし	2	読書に興味を持たせる	絵本の読み聞かせをきく 紙芝居、パネルシアターを見る	児童の実態に応じた絵本を準備する
大好きな本をみつけたよ	2	好きな本を選ぶことができる。挿絵をみながら話の筋をつかむことができる	教師の読み聞かせをきく 教師と一緒に読む 場面ごとに読む 好きな絵本を最後まで読む 読書カードに書く	自作の絵本を準備する 発達段階に応じた読みの援助をする

読書発表会のじゅんびをしよう	1	心に残った場面を選ぶことができる	計画を立てる 紙芝居、絵本、ペーパー等を作る	感じたことを言葉や体で表現させる 目当てや見通しを持たせ、声かけをしながら活動を持続させる
	5	最後までがんばり仕上げることができる	自分なりの表現で練習する	
	1	発表会の練習をする		
読書発表会をしよう 学習のまとめをしよう	1	友達と仲良く発表会をすることができる	自分の出番がわかり、自作の作品で発表する 最後まで聞くことができる 友達の良さを見つけることができる	普段の力が出せるように配慮する。緊張のあまりパニックにならないように配慮し、個に応じて援助する
	本時			
	1	学習を振り返ることができる	反省カードに記入する 「楽しい読書」を振り返り、楽しかったこと、心に残ったことを絵や短い文に表す	写真や読書カードを提示し書かせる

5 本時の指導

(1) 小単元名 「どくしょはっぴょうかいをしよう」

(2) 本単元について

学級の児童は5人という小集団ではあるが、実態調査からもわかるように一人一人の能力には差がある。本読みについては挿絵で読む子、拾い読みの子、最後まで読めない子、ほとんど読めない子等さまざまである。これまでに全員で取り組んだ「三匹のこぶた」「大きなかぶ」の劇遊びでは、短いセリフを覚えて大きな声で、言葉もはっきりと言えるようになっていた。

本単元で扱った「三びきのやぎのがらがらどん」「そらまめくんのベッド」では、大意を捉えることができた。本時では「聞く、話す、読む」等の個々の力を引き出し、表現力を高めさせ成就感を味わわせたい。

また友達の良さに気づき、楽しい人間関係が生じ豊かな生活が広がっていくようにしたい。

(3) 本時のねらい

- ① 自分の作品を最後まで発表することができる。
- ② 友達の発表を最後まで見たり聞いたりできる。
- ③ 学習の感想を発表することができる。

(4) 児童一人一人の実態と本時における行動目標と授業後の評価

◎できる ○手伝つたらできる △できない

名前	学年	本 時 の 目 標	評価
A	5	①大きな声ではっきりと話すことができる ②最後まで聞くことができる ③友達の良かったところを言うことができる	◎ ◎ ◎
B	5	①司会ができる。 ②あわてず発表することができる。 ③友達の良かったところを言うことができる	◎ ◎ ◎
C	5	①好きな場面を動作化することができる。 ②友達の発表を聞くことができる。 ③集団から離れず最後まで参加することができる	◎ ○ ○
D	3	①大きな声で感情を込めて発表することができる。 ②友達の発表を最後まで聞くことができる ③友達の良かったところを見つけ大きな声で言うことができる	○ ○ ◎
E	3	①みんなに聞こえる声で発表する。 ②紙芝居の絵を見て話をすることができる ③最後まで話を聞き、参加し、友達の良いところを見つけることができる	◎ ○ ○

(5) 授業の仮説 好きな場面を発表することにより意欲的に取り組み、表現力も高まり社会参加への態度を育てることができるであろう。

(6) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	
導入 10	<p>1はじめのあいさつをする 2みんなで歌おう ・三びきのこぶた 3読んだ本を紹介する ・教師の提示する1枚の絵から絵本の名前を言う 大きなかぶ しらゆきひめ 赤ずきん 海のおまつり 4本時の学習について話し合う ・約束の確認（全児童）・聞く姿勢、見る姿勢 声の大きさ ・一人一人のめあてを確認する 5読書発表会をする ・プログラムにより進める</p> <p>①D男 三びきのやぎのがらがらどん 好きな場面を絵や文で発表する</p> <p>②E子 そらまめくんのベッド 自作の紙芝居を恥ずかしがらずに皆に聞こえる声で、考えた通り発表する</p>	<p>元気な声であいさつをさせる 動作もいれながら大きな声で歌う</p> <p>絵本の名前をはっきり言わせる（エプロンから出して学習へ意識的に向かうようにする）</p> <p>学習の見通しを持たせる 注意の必要な子に読ませる</p>	
展開 20	<p>③C男 三びきのやぎのがらがらどん 自分で色塗りした八つのカードの場面を順に並べさせ、それそれぞれに合う文をマッチングさせる 好きな場面を読み動作化させる</p> <p>④A男 三びきのやぎのがらがらどん 自作の紙芝居を大きな声で発表する</p> <p>⑤B男 そらまめくんのベッド そらまめくんの様子をペーパーサーとパネルシアターで発表する</p>	<p>A 大きな声で紙芝居をはっきりと読ませる 話し手を見て最後まで姿勢良く参加させる</p> <p>B ペーパーサーを使って好きな場面の話をさせる 落ち着いてゆっくり考えた通りに発表させる</p> <p>C 教師の話を聞いて、絵を順に並べさせる。 操作しやすいように絵カードを黒板に貼らせる 文章カードを話の順に並べせる。</p> <p>D ゆっくり大きな声で読ませる 感情を込めてセリフを言わせる。</p> <p>E はずかしがらずに、みんなに聞こえる声で発表させる。 絵を見ながら、考えたことを発表させる。</p>	
まとめ 10	<p>6感想を発表する ・がんばったことを発表する ・友達の良かった所を発表する</p> <p>7先生の話を聞く</p> <p>8次時予告をする</p> <p>9おわりのあいさつをする</p>	<p>☆活動が中断した時の援助) ☆読みなくなったら教師と一緒に読む</p> <p>・自分の考えをみんなに伝えることができる</p> <p>・良いところを認め合い一人一人に成就感を味わわす ・今日のがんばりをほめ全員に賞をあげる</p> <p>・大きな声であいさつをさせる</p>	<p>☆内容を忘れたたら前もって書いてある文を読ませる</p> <p>☆話の順を忘れたたら絵本を見せ並べさせる ・興味を維持させたり、友達の発表にあきさせないために手伝いをさせる ・教師の後に続いて言わせる</p> <p>☆緊張すると声も小さく早口になるので側に行って励ます</p> <p>・みんなにわかるように発表させる</p> <p>・自信をもって発表するよう励ます</p> <p>メダルをもらってうれしいな</p>

(7) 児童の様子

名前	授業前	授業中
A	<p>がらがらどんの絵本を拾い読みしていたが、繰り返し読んで文としてだいたい読めるようになった。</p> <p>発表会に向けて他の子をひっぱりながら取り組んだ。雑な色塗りをしていたが紙芝居の絵は、丁寧にぬっていた。</p> <p>周りを気にして「緊張するね、がんばろうね」と小声で話している。</p>	<p>途中姿勢が崩れそうになるが、約束を思い出して正座をする。</p> <p>友達の間違いを言い直したり注意したりよく話を聞いていた。</p> <p>パネルシアターの台の準備を言われない前にやった。</p> <p>紙芝居を真剣に読んで、声も一番大きく意欲的に取り組んだ。</p> <p>途中司会のシナリオを読んでいる。役割を果たそうとする責任感がある。</p> <p>自分の頑張ったことや友達の良さを見つけ大きな声で発表した。</p>
B	<p>毎日、そらまめくんの絵本を繰り返し読んで、内容を捉えることができた。</p> <p>大きな声で読む練習をする。発表会に向けて取り組むなかでいろいろなアイディアを出してきて、楽しく学習していた。</p> <p>作業しながらいろいろな話をしていく。</p>	<p>恥ずかしそうにしていたが、話を良く聞いて姿勢がいい。指名されるとうれしそうにし、声も大きくなり意欲的に取り組んでいる。</p> <p>感想発表のとき自分ががんばってことや友達の頑張りも言うことができた。</p> <p>「先生のエプロンがかわいい」、メダルをもらうとき「そらまめくんだと」言い、「先生ありがとう」と自分の気持ちを素直に表現していた。</p>
C	<p>ひとつのことに集中できず立ち歩きが多い。</p> <p>がらがらどんやトロルの台詞を覚え大きな声で言うことができた。</p> <p>普段の色塗りは雑だが、がらがらどんの色塗りの時、はみ出さないようにと意識してぬっている。</p>	<p>直面の仕事を張りきってやり号令の声も大きい。</p> <p>歌の声は一番大きくて、動作もいれ楽しんでいる。</p> <p>カセットの操作がとても上手だった。</p> <p>出番がよくわかり絵カード、文字カードも並べることができた。好きな場面の動作化は、元気よく楽しそうにやって上手だった。</p> <p>途中、時計カードを取ったり、友達の発表を聞かず自分の世界に入ったりしていた。</p> <p>手伝いは教師に促されながらやっていた。</p>
D	<p>三びきのやぎのがらがらどん、そらまめくんのベッドが大好きで二冊を楽しそうに読んでいる。</p> <p>繰り返し読んでいるので読む速度は速いが、句読点を気にせず読んでいる。</p> <p>書く内容はほとんど同じだが二冊の絵本を通して書く内容に変化が出てきた。</p> <p>丁寧に書くようになってきた。</p>	<p>導入での声の大きさの確認のとき「あー」の声がうまく出す3回目に合格した。</p> <p>教師の問い合わせにすばやく答えていた。</p> <p>発表の時感想文を大きな声で読んだ。</p> <p>発表の時「感情を込めて発表する」ということは良く見つけられなかった。</p> <p>アトピー性皮膚炎のせいか首をかいていて集中しない場面があった。</p> <p>教師の話を良く聞かず違った答えを出そうとしたが、援助で修正し答えていた。</p>
E	<p>きれいな色の絵本が大好きで色々な絵本を喜んで読んでいる</p> <p>そらまめくんのベッドは、ゆっくり丁寧に読んで文を覚えた。</p> <p>紙芝居作りは、これまでの学習を思い出して、工夫しながら教師に相談しながら取り組んだ。</p> <p>絵を見て話すことはできるが文作りは細かい指導を要する。</p>	<p>全体的に声が小さかったが発表のときはみんなに聞こえる声で話していた。</p> <p>紙芝居のときは、そのつど絵を確かめながら落ち着いて発表していた(裏に文は書いてない)。</p> <p>教師の發問をしっかり聞いていて、答えていた。</p> <p>姿勢がよく最後まできちんと参加して、学習中の手の挙げ方もすばらしい。</p> <p>パネルシアターの発表のとき、興味をもち集中してよく聞いていた。</p>

(8) 授業の考察

- ① 導入で大好きな3匹のこぶたの歌を歌って和やかな雰囲気づくりをしたのはよかった。
- ② どの子も好きな方法で取り組み発表したので、自信をもって生き生きと取り組んでいた。
- ③ 授業に参加できるようにエプロンシアター、司会の交代等工夫したので最後まで参加できた。
- ④ Aは、落ち着いて授業に参加しリーダー性を發揮しながら取り組んだ。堂々と発表することができたので次は喜いて発表する活動に取り組ませたい。
- ⑤ Bは、人前に出るのは苦手だが責任を持って司会のシナリオを書いたり、発表もできたので、これからも発表の機会を多く設け持っている力を發揮させ自信をつけさせたい。
- ⑥ Cは、授業中立ち歩きが多いが、今日は良く授業に参加していた。成長した様子が伺えた。これからも基本的な学習態度を育みながら、学習への参加の方法を考えていきたい。
- ⑦ Dは、発表の時、読む速度が速くなりはっきりしないところがあったので音読を通して読む速度を身につけさせたい。
- ⑧ Eは、押し絵を参考に絵を描き、内容を覚え自分の言葉で発表していたが書く力は努力を要するので、他教科も含めて「書く」指導が必要である。

授業終了後のBの感想



V 研究全体の考察

1 教材について

(1) 読み聞かせに使った二つの絵本

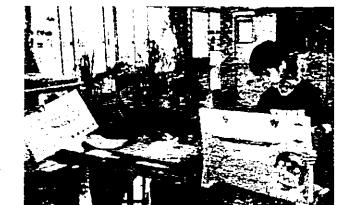
三びきのやぎのがらがらどんとそらまめくんのベッドは、絵の表情が豊かで絵と文がとけあっていて、文字の読めない子でも絵を読んで大体の筋がわかった。絵は、創造性をのばすことになり興味を持つて何度も繰り返し読み続け児童に適した絵本であった。

読み聞かせを繰り返すことにより言葉として読めるようになって自分の力で読むことができた。

二つの絵本は、話の内容が分かりやすく、繰り返しの音節を楽しみながら言葉の力を育て、感じる心、生き方を学ぶことにつながった。

(2) 紙芝居

紙芝居は、「抜く」という独自のゆったりしたテンポが、児童の持っている心や体の速さ、リズムに合い自然な形で取り組むことができるので、演じ手の児童は自分のペースで取り組み落ち着いて演じることができた。絵に合う文作りを教師と一緒に取り組むことにより書くことへの抵抗が少なくなった。



(3) ペーパーサート

絵人形ともいわれ、画用紙に描いた絵を竹串に貼って作るので製作が簡単でどの児童も好きである。

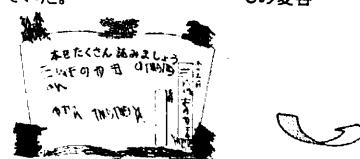
演じる児童は、自由に動かし聞いている人を見ながら操作することができるで聞き手との一体感が生まれ、楽しく学習活動を展開していた。

また児童は、がんばって自分の言葉を大きな声で表現したので見る側にもわかりやすく喜ばれた。そのため自信を持つことができ他の活動にも意欲的に取り組んだ。

(4) 書くこと

好きな絵本を使っての読書活動は、これまで書くことに興味を示さなかった児童に変化をあたえた。自分の好きな場面を他の児童が発表するのを楽しんで見たり、文を書くのを見たりするうちに徐々に書くようになってきた。台詞や文を覚えて周りからも賞賛されたため、さらに意欲が高まり楽しく学習に参加していた。

Cの変容



2 児童の変容

学習レディネスの変化（4月と7月の変化）

◎できる ○手伝ったらできる △努力を要する

内 容	名前					(4月)	7月)
	A	B	C	D	E		
絵本の読み聞かせを聞いて楽しむ。	○	○	○	○	○	○	○
5分ぐらい話し手のほうを向いて話を聞く事ができる。	○	○	○	○	△	○	○
短い話を聞いて何が登場したかがわかる。	○	○	○	○	△	○	○
みじかい話のあらすじがわかる。（紙芝居、絵本等）	○	○	○	○	△	△	○
教師や友達の話を聞いてその内容がわかる	○	○	○	○	△	△	○
やや長い話を聞いて、内容が捉えられる。	△	○	○	○	△	△	○
簡単な要求が相手にわかるように言える	○	○	○	○	△	○	○
三センテンス以上で話すことができる	○	○	○	○	△	△	○
伝えたいことが相手にわかるように話したり説明する	○	○	○	○	△	△	○
発音や声の大きさに気をつけて話すことができる	○	○	○	○	○	○	○
質問したいことを言うことができる	○	○	○	○	△	△	○
絵本を読んだり聞いたりして楽しみ簡単な感想を話す	○	○	○	○	△	△	○
ひらがなの単語が読める	○	○	○	○	○	○	○
カタカナの単語が読める	△	○	○	○	○	○	○
一年生程度の漢字が読める	○	○	○	○	○	○	○
二年生程度の漢字が読める	△	△	△	○	○	○	△
絵本を楽しんで読み、内容がわかる	△	○	○	○	△	△	○
やや長い物語を読んで簡単な感想が言える	△	△	△	△	△	△	△
単語が書ける	○	○	○	○	○	○	○
簡単な文章が書ける	△	○	○	○	△	○	○
一年生程度の漢字が書ける	△	△	△	○	△	△	○
語と語を続けて簡単な文を作ることができる	△	○	○	○	△	△	△
カタカナや漢字を使って、簡単な文が書ける	△	△	△	△	△	○	△
文と文を続けて簡単な文章を書くことができる	△	△	△	○	△	△	△
線にそって切ることができます	○	○	○	○	△	△	○
はみださないで色を塗ることができます	○	○	○	○	△	○	○
いろいろな色のクレヨンを使うことができます	○	○	○	○	△	○	○
絵に合う色を選んで塗ることができます	○	○	○	○	△	○	○
いろいろな話題に応じて描くことができます	○	○	○	○	△	△	○
描いたものを意味づけて話すことができます	○	○	○	○	△	○	○
友達の作品に関心を持って見ることができます	○	○	○	○	△	△	○

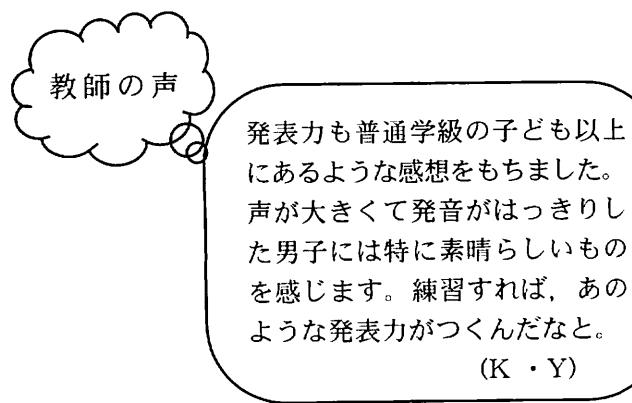
考察

- ・絵本の読み聞かせを通して聞く態度ができてきて集中する時間が長くなった。
- ・絵本の絵をもとに話し合う時、感じたこと、気づいたことをうまく言えなかつたが、繰り返し練習したので話すことに抵抗が少なくなった。
- ・同じ絵を描いて、絵に変化がなかつたが絵本の挿絵を読むことによって顔の表情や動作に変化をつけることができた。
- ・カタカナや漢字まじりの絵本は、ほとんどの児童が読むことができないので個に応じた指導計画を作成し読書の幅を広げたい。
- ・読書活動を通して書くことに興味を示してきたので継続して取り組ませたい。

VI 研究の成果と今後の課題

1 成果

- 自分で絵本を読むとき、挿絵だけを読んで文字は読まなかつた子が、何度も読み聞かせをした後に絵本を読むとき、文字にも興味を示し次第に読めるようになった。
- 拾い読みの児童は、教師がそばについて一緒に声に出して読むようにしたので効果があった。
- 読み聞かせにより集中して聞くことができるようになり、落ち着いて聞く態度が身についてきた。
- 読むとき、発表するとき、声の出し方の約束をして取り組んだので声の小さかった児童もみんなに聞こえるように読んだり発表することができた。
- そらまめくんの心の変化を読み取ることができ、思いやりの心が生活の中で生かされた。
- 個別指導計画を作成したので、授業に見通しがもて意図的・計画的、継続的な指導でき個に応じた指導もできた。
- 力が強くリーダー的存在であるAは、わがままな行動をしがちだったが、困っている子を手助けをする場面が多く見られた。
- 人前で話すことがにがてなBは、司会をまかせたことで声も大きくなり自信もついてきた。
- 読んだり説明を聞いたりするだけで理解できないCは、動作化させて身体で捉えさせたので学習に楽しく参加できた。大好きながらがらどんの色ぬりを繰り返すことにより、はみださずに塗ることができるようにになった。
- 検証授業では感情を込めて台詞を言えなかつたDは、普段の授業では、言葉を使い分け工夫して読んでいた。がらがらどんの歌をつくり、みんなの前で自信たっぷりに歌うことができた。
- Eは、一つ一つの場面は捉えられても次の場面へつなげられないで、絵本の内容をまとまりとして捉えることができなかつたが、絵本を紙芝居にすることによって連続的なイメージを持つようになった。
- 検証授業の様子を校内放送で全児童、教職員へ視聴させたので特殊学級の児童の良さを理解し、今後の指導に役立てることができた。



2 今後の課題

- 生活単元学習の読書単元の年間個別指導計画の作成。
- 読書活動における表現力を高めるための実践の充実。
- 書くことは、十分でないので書くための個別指導計画を作成し日常生活の中で使えるようにする。
- 交流学習で読書発表会を持ち多くの児童と関わらせて社会性を培わせたい。

〈主な参考文献〉

宮崎直男	『知的障害者への教育はどう変わるか』	明治図書	2000年
山崎翠	『子育てに絵本を』	エイデル研究所	1999年
小出進	『生活単元学習』	学習研究社	2001年
知的障害養護学校長	『新しい教育課程と学習活動Q&A』	東洋館出版	2000年
"	『個別指導計画と指導の実際』	"	2000年
文部省	『養護学校学習指導要領解説』	"	2000年